

MIDORI KITAKYUSHU みどり北九州



北九州緑化協会

発行所

一般社団法人 北九州緑化協会

〒802-0026 北九州市小倉北区大倉2-10-1

発行人/水野貞明 編集/広報委員会

TEL.093-482-2200 FAX.093-482-2210

e-mail : info@kita-ryokka.or.jp

ホームページアドレス : <http://www.kita-ryokka.or.jp>

第 52 号
令和2年
4月1日発行

ご挨拶

こちら公園緑地部 響灘緑地グリーンパーク 子どもの遊び場整備事業

環境と緑 令和元年度 公益活動報告

「北九州市みどりのまちづくり推進大会」公開シンポジウム

第43回都市緑化祭への出展協力

「到津の森公園」環境整備支援活動

初めまして「〇〇」です

グッドニュース 僕たち 樹木医に合格しました

樹木医からの一言

令和元年度 協会活動報告

緑のネットワーク

会員名簿

『響灘緑地研修館』貸出のご案内

掲示板

「小倉城竹あかり」
写真提供:河野一博様

ご挨拶



北九州市長 北橋 健治

一般社団法人北九州緑化協会の皆様におかれましては、日頃から、本市の都市緑化や公園緑地の維持管理業務など多岐にわたり、多大なご尽力をいただいております、深く感謝申し上げます。

また、「到津の森公園での園内整備」、「『都市と自然の共生』シンポジウムの開催」、「都市緑化祭でのイベント実施」など、社会貢献事業も毎年実施いただいております、重ねてお礼申し上げます。

昨年は、「日中韓三カ国環境大臣会合」の開催や「門司港駅」グラウンドオープン、「関門海峡ミュージアム」のリニューアルオープン等で、多くの方に本市をご来訪いただいたほか、ラグビーワールドカップ時のウェールズ代表チームによる公開練習などで、本市のおもてなしや魅力を国内外に発信することができました。さらに、「ギフヴァンツ北九州」のJ3優勝・J2昇格など明るい話題に恵まれた一年でした。

今年も元気な北九州市を目指して様々な取組を進めてまいります。新型コロナウイルス感染症の影響で開幕式典の開催は延期となりましたが、3月28日、いよいよ「東アジア文化都市2020北九州」がスタートしました。

た。これから一年間、多彩な文化芸術イベントを実施しながら、中国・韓国など東アジアとの交流を図ってまいります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプや「2020ホラシスアジアミーツイング」などの国際会議も本市で開催されます。

公園緑地事業では、城山緑地の遊具広場の整備や、環境首都にふさわしい緑のシンボルづくりとして曾根・豊岡地区公園整備などに取り組んでまいります。また、国内外から多くの方々をお迎えするにあたり、豊かな緑や花に彩られた美しいまちづくりを進めてまいります。

今後も、文化芸術、スポーツの振興によりまちに活力をもたらし、若者の定着を図る地方創生やSDGs達成に向けての取組を着実に推進することで、「日本一住みよいまち・北九州市」の実現に取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人北九州緑化協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



一般社団法人北九州緑化協会
会長 水野 貞明

新年度を迎えるにあたって、一言で挨拶を申し上げます。

お蔭様で昨年も、さまざまな協会活動を展開することが出来ました。公益活動として、到津の森公園での環境整備のボランティア活動、都市緑化祭への出展協力等々。

特に昨年の11月2日に市民も参加され開催した2019日本造園学会九州支部北九州大会を兼ねる「北九州市みどりのまちづくり推進大会」では、テーマを「成熟都市における今後のランドスケープ・緑のあり方」とし、講師の横張真東京大学大学院教授、柴田久福岡大学工学部教授にご講演をいただきました。このシンポジウムが、「防災や減災」「快適な居住環境の向上」「生物多様性確保」「地域再生」などの考察を通じて、ランドスケープ・緑のあり方の重要性について市民の理解の一助となれば幸いです。

さて、我が国は、これまで経験したことのない社会に移行しつつあります。急激な少子高齢化の進行と人口減少、気候変動に伴う地球環境問題、特に近年日本各地で頻発するようになった豪雨災害、また観光などで際立つグローバル化による世界的な都市間競争等々です。こうした社会的課題や環境問題の解決に対して、「グリーンインフラ」が、新しい社会

資本整備のあり方としてクローズアップされてきました。これは、自然環境が有する保水機能、大気や水質の浄化、良好な景観形成などの多様な機能を社会基盤として活用することによって、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを推進することであり、国の社会資本整備重点計画や国土形成計画にも位置づけられています。

私共は、日頃から「自然」や「緑」との関わりの深い業種ですので、地域の特性や自然資源を十分に生かす知恵や技術力を高めることによって、将来に向かっての社会的役割を見出すことが出来るのではないかと考えています。

本年度も、美しい北九州市の都市景観の実現や潤いのある生活空間をめざす「都市緑化の推進」や、環境に関わる「都市と自然の共生」をテーマに、事業者であるとの意識のもと、より一層努力してまいります。

また新たな施工技術の向上、伝統的造園技術の継承・発展や経営の合理化に向けた取組みも一層強化したいと考えております。

今後とも皆様方により一層の御指導・御支援をお願い申し上げますと共に、益々の御発展を心からお祈り致します。



北九州市の公園事業として、本市の地域資源を活かした特徴的な取り組みをご紹介します。

響灘緑地グリーンパーク 子どもの遊び場整備事業

◎新たな時代

平成から令和へ、新たな時代が始まったある春の日、快晴のグリーンパークに少し緊張した表情に包まれた1000人の子どもたちがその時を待っていた…。

◎はじまり

第8回全国都市緑化フェアの会場跡に開園したグリーンパーク、開園から20年以上が経過した現在、様々な施設の老朽化が進みつつある。

グリーンパークのほぼ中央に位置する森に整備された「冒険の森」もそうした施設の一つであった。多くの子どもたちの歓声でにぎわった森も老朽化により施設が一つまた一つと消えていくとともに子どもたちの声もまばらになってきた。

もう一度、子どもたちの声があふれる公園にという思いがグリーンパークに新たな遊び場を整備する計画を動かした。

◎消えゆく遊び場

公園に行けば、ブランコ、滑り台、砂場、そして友達がいる…。それはもう過去のことだ。

現在、安全が確保できないからとブランコ、滑り台が、衛生上問題があるからと砂場がその数を減らした。子どもたちは遊ぶ「空間」を失い、塾や習い事で遊ぶ「時間」を失い、そしてともに遊ぶ「仲間」を失いつつある。

失われた3つの間を取り戻すこと。これこそが

これからの公園事業、そしてその先駆けとなるこの計画が目指すものであった。

◎最初の一步

多くの子どもたちはブランコが大好きだ。ブランコの周りはいつも順番待ちの列ができています。子どもたちが思う存分ブランコを楽しめるためにはどうすればよいのか…。

ブランコの座席は通常2つ、座席数の少なさが課題だ。座席が多ければ順番待ちはなくなるはず。特にグリーンパークには遠足などで多くの子どもたちが一斉に來園する。

計画図面にたくさんさんのブランコを並べていく。しかし、何かが足りない…。

ブランコの楽しさは何か？くらくらするような浮遊感、風を切る爽快感、それだけだろうか…。

子ども時代を思い出してみる。一人でこぐブランコも楽しかった。でも、みんなで競うようにこぐブランコはもっと楽しかった！

基本的に一人乗りの構造であるブランコで、みんな楽しんでいけるという一体感を生み出すにはどうすればよいのだろうか？ふと目にしたオーストラリアの公園の写真がヒントとなった。



ブランコが円状に並べば、隣や向かい合ってブランコに乗る人が視界に入る。こげばこげほど視線が合う、初めて会った人でも何度目視線を交わせれば友達になったような気がする。

これで一一体感を実現できる！

計画図面に様々な円を描いていった。そして出来上がった図面に収まった

ブランコの座席数は1000、その延長は160mを超えていた。

◎実現する困難

完成した設計図面は丘を造成し、その上に円状のブランコを設置するものだった。周りの芝生広場よりも一段高くすることでブランコをこぐ爽快感が感じられるようにする工夫であった。

その工事は困難を極めた。このブランコは2連ブランコが50基つながったシンブルな構造だ。しかし、「円状につながる」と製作、設置の難易度を大きく高め、工事関係者を苦しめた。

座板を吊るす梁のカーブは一定であること、梁を支える各柱の設置高さの管理が精緻であること、この二つの条件が満たされなければブランコの梁がつかがり、円となることはない。

基盤整備工事、ブランコ設置工事、それぞれの工事を受注した造園事業者2社の協力は不可欠であった。

◎とある事実

時期を同じくして全国都市緑化やまぐちフェア「山口ゆめ花博」で日本一の長さのブランコが整備されたとのニュースが流れた。その長さ約150m。グリーンパークで計画しているブランコは約163m、完成すれば日本一の長さだ。いや、もしかすると世界一かもしれない。「世界一」の記録を認定し続けているギネス世界記録に問い合わせた。

その結果は、「現在の世界最長のスウィングセット（ブランコ）は1998年にオランダで認定された133.99mのブランコである。」

つまり、グリーンパークのブランコが完成すれば世界一になるということであった！

◎世界一を目指して

「このブランコは世界一になる。」

この工事は世界に挑戦する工事となった。



世界一のブランコを誇らうにこぐ1000人の子どもたちの笑顔と歓声のイメージは工事関係者の気持ちを一つにまとめるのに十分な目標となった。

平成31年4月。完成したブランコの長さを確認するため、緑化協会専務理事、地元若松の造園事業者代表2名の立ち合いのもと、測量士による精密な計測が行われた。測量結果は163.351m。その記録はギネス世界記録事務局に提出され、長さの証明は確認された。

しかし、「世界最長のスウィングセット（ブランコ）」であることを証明するためにはもう一つの条件が残されていた。

◎最後の条件

設置された1000の座板すべてがブランコとして機能するのか、これが世界一を証明するための最後の条件であった。

これを証明するためには1000人が同時にブランコをこぐ必要があった。この挑戦に挑む子どもたちを市内外から募った。

そして、令和元年5月11日。8000人の応募者から選ばれた1000人の子どもたちが少し緊張した表情を浮かべ、ブランコに座っていた。

◎世界一へのスウィング

「それではございしてください！」アナウンスの声とともに子どもたちは全身をつかい、ブランコをこぎはじめた。そして…。

「世界一であることを確認しました！」

ギネス世界記録公式認定員の発声と同時に晴れやかな青空と新緑の芝生に包まれたグリーンパークには子どもたちの歓声が響きわたっていた。



(記・建設局公園緑地部)



「北九州市みどりの まちづくり推進大会」 公開シンポジウム

日本造園学会九州支部、北九州市と協働で11月2日(土)に北九州国際会議場で藤田良司北九州緑化協会副会長をコーディネーターに公開シンポジウムを開催しました。

基調講演①

横張 真氏

(東京大学大学院工学系研究科教授)

「土地に引く線・ヒトに引く線」
—新たなワークスタイル・ライフ
スタイルと農のランドスケープ—

〈グリーンフラとグリーンインフラ〉

自然物、水、大気、生物などグリーンインフラ(以下、



横張 真氏

GI)と鉄やコンクリート、アスファルトなどの人工物であるグリーンインフラの大きな違いは時間軸ではないか

と思う。
グリーンインフラは、多くの場合、竣工直

後が一番良い状態で時間が経つとだんだん劣化していく、ダメになってしまふ。グリーンインフラは、いかに竣工直後の状況を長く続けるか。言い方を変えれば、いかに時間を凍結するかだと思ふ。

これに対してGIは、栄枯盛衰がある。すなわち育っていくものである。そして成熟し、あるピークを過ぎると次第に衰えていつて最後は土に帰っていく。

〈Society(ソサエティ)50の時代と時間軸〉
これからの時代は、40である現在の情報社会の先にSociety50という社会が築かれるのではないかと言われている。

このSociety50は、IoTを通じてビッグデータとして様々なデータがリアルタイムで入ってくる。このデータがAIを使ってリアルタイムに解析されてしまふ。その結果が、また瞬時にクラウドを使って、現場にフィードバックされていく。こういう社会になるかとしている。キーは、これがすべてリアルタイムであることにある。先ほどのGIも時間軸が一つのキーワードになる。この両者は、親和性が高い。その意味で今、世の中で問われているのはGIであり、Society50がもたらす先のもの、そのどちらかが時間軸にあつて動的に捉えていくことなのではないかと思ふ。

例えば、これまでの都市計画図という1枚の図が描かれ、その静止画の図に基づいて都市をどのように誘導していくのか。あるいは緑地計画であつたとしても、ある自治体の1枚の図の中に基ついて緑地を整備していく。

この従来の考え方に対して時間軸を積極的にいとなんとこれが動画に代わっていく。つまり様々な変化を同時に捉えていく。計画という話が大きく変わろうとしているのだと思ふ。

〈計画の静止画と動画〉

さらに長いタイムスパンで考えると都市計画あるいは緑地計画が静止画でなく、基本的に動画の世界でもって、今後、計画を考える必要があり大きく変わろうとしている。動画という話になると従来であれば一つ

の絵の中に計画が収められていたが、それが複数の絵の中に展開される。しかもそれに時間軸が貫いているとなると境界線が極めて曖昧になってしまふ。

これからの時代は、GIが問われSociety50の時代が訪れようとしている。これまで静止画で描かれていたものが、動画に変わっていく。一方で境界線がファジーである、あるいは可変的になっていく。

この境界線の位置が変わっていく、変わりやすい。こう言った概念が、これからの都市計画や緑地計画などを考えていく場合の大きな二つのキーワードになるのではと考えている。

〈都市の拡大から縮小へ〉

これから日本は超高齢社会に入ろうとしている。今後、総人口が減るが、すでに坂道を駆け出している。東京も減っていく。

日本も世界中の都市も拡大の一途を辿ってきたが、近年、大半の日本の都市は、拡大が止まった。

現行の都市計画は基本的な発想が、拡大する都市をいかに制御するかである。したがって都市計画行政や制度は、ほぼ例外なく拡大することの制御が根底の発想であつた。縮小を誘導することには、ほとんど制度がなかった。

そこで制定されたのが、2014年に制定された通称コンパクトシティ法であつた。

この法律では、既存の市街地の内側にもう一本線を引いてその線の内側に凝縮した市街地を造ることによって都市の経営を効率的なものとし、人口が減っても財政破たんにならないことが目指された。

しかし問題は、コンパクトシティが目指すように、都心に様々な業務や居住を集積させて、そこに都市を押し込めることになれば、当然行為の偏りを郊外が食らうようになる。都心は郊外の犠牲の上に、形成されることになりかねない。これが起きようとしているから、コンパクトシティなどは容認されなくて、現場において非常に反発を受けるなど大きな課題になっている。

〈暫定的な目標という考え方〉

一つの鍵は、恒久的な目標でなく暫定的な目標の与え方になるのではないか。以前のように何年後にはこうなるというガッチリした目標ではなく、いわゆるPDCA(Plan)計画・DO(実行)・CHECK(評価)・ACT(改善)がそうだが、暫定的な目標を掲げてローリングをかけていく中で、どこかに落としどころを求めていくようなスタンスが必要な社会に変わってきている。これがまさに動画という話にリンクすると思つている。こうした量む、造らないというエリアに対しては、暫定的な目標に基づいて計画論が積極的に考えられなければならない。つまり「場しのぎ的」とりあえず暫定的にはなく積極的のに暫定であるということをも位置づける計画論が必要になってくると思ふ。

〈境界の曖昧さ〉

さらにわが国の都市は、境界が可変的である、あるいは曖昧である。この境界の曖昧さには、一つは、空間的意味での曖昧さと、もう一つは社会的ないしは経済的な意味での曖昧さの二つの側面がある。空間の方から言えば、ヨーロッパではまたアメリカもほぼ同じだが、まずもって最初に線を引く。つまり西欧の近代の都市計画は、外縁を定めた後、その内側に様々な用途を貼り付けて街を創っていく。

これに対して日本の都市は、線がない。現在でも東京都で農地がないのは、23区のうち都心の12区で11区には農地がある。言うまでもなく、その外になる多摩などの市町村には、すべての自治体に農地がある。農地面積は、全体の3.5%程度だが、三分の一が東京は山であるから、これを除くと農地が市街地の7.8%を占めているのが東京の実態である。

つまり境界を描かないというのが日本の都市の共通した特徴であつた。その伝統が未だに続いている。

〈土地に引く線・ヒトに引く線〉

それはなぜか。概して言えば一方に農地法があつたからである。1952年(昭和27年)に農地法ができ、農家が農地を取得

する権利を非常に手厚く保護している法律である。これに対して都市計画法の改正法が1968年(昭和43年)にできたが、まさに土地に線を引いている。

農地法は、一見すると農地を保全する法律と考えられがちだが、実体としては農家が誰かを定めた法律でヒトに線を引いている。

都市計画法が土地に線を引いていることと農地法がヒトに線を引いていることの二つの論理が、重合されていることが、日本の計画のどくに郊外部の計画における大きな特徴である。土地に線を引く都市計画法とヒトに線を引く農地法、この二つが重合された中で日本の郊外部はできた。

このため市街化区域内であっても農地が残り、市街化調整区域内にもスプロール状に市街地が進展してしまつたという実態を生んでしまっている。

これできてしまったと言つのが日本の都市計画の失敗である。これまで50年近く言われてきた。

以上、主にこれからの都市形成にかかわるご講演部分のみを抜粋。

全編をご希望の方は、メールアドレスをFAX (093-482-8019) してください。)

基調講演②

柴田 久氏

(福岡大学工学部社会デザイン工学科教授)

「地方都市の再生にむけた

ランドスケープ・デザイン」

〈地方都市活性化の本質〉

人口が減っている街が全国的に多いことから、これからは地方都市の活性化を念頭に置き、ランドスケープを守り、育て、活かすデザインをすることが、時代的により重要になると思う。

その街にしかないランドスケープの資源、価値を発掘し、その街らしさ、その街

の特徴、その街の良さと何だろうというものを地元の方々が共有することで自分の街を再認識し、結果的に誇りを持つことができるのではないだろうか。またランドスケープの資源を活かす方策を立案して、わが街の魅力を外にアピールしてそれによって観光に来てもらい経済的に活性化を図る。仮にお金落ちなくても人と人が交流し賑わいが生まれるよう考えていかなければならない。



柴田 久氏

〈公共空間整備の三つのポイント〉

地方都市の活性化にとって公共空間のデザインに求められるのは、日常性、波及性、継続性の三つのポイントがある。NHKと呼んでいる。

Nの日常性。都市公園や活性化拠点となる公共空間は、イベント開催に利用されることも多い。いかに普段から使われる場所になるか、その日常性こそが「にぎわい」を支え続ける根本である。

Hの波及性。整備された公共空間だけで人の動きや消費活動が完結しないこと、それらの施設を拠点としながら、周辺への回遊が促される工夫を十分検討しなければならない。

その場所だけが儲かる、そこだけに人が居るといえるのではなく、そこから周りに経済的かつ人の回遊性が促されるように波及効果が目指せるか。そういうデザインになっているかが重要である。

Kの継続性。維持管理に行き詰まり供用開始後すぐに整備された施設の閉鎖や、まったく違う用途に機能転換されてしまったのでは意味がない。

「箱モノ行政」と揶揄されるように、多額の補助金や予算がつくことで過剰な施設をつくることのないよう、身の丈にあった施設の継続的運用について考えておく必要がある。

さらにどの街にも継続的に残すべき場所

や空間がある。そういう場所をしつかり見つけ出し、どうやって未来につなげていくか。こういうことも活性化のデザイン、空間のデザインには求められる。

柴田先生の著書「地方都市を空間から再生する」を踏まえ、再構成。

〈眺めの質をデザインする〉

空間デザインを学ぶには、景観工学の基礎理論に篠原修さんの「景観把握モデル」がある。このモデルは、視点、視点場、主対象、対象場の四つの要素を用いつつ、良好な眺めが得られる関係性を模索する枠組みと言える。風景づくりにとって、主対象が魅力的に眺められる視点場の探索と快適性の創出は重要なデザイン行為である。

例えば淡路サービスエリアは、少し小高い丘にわざわざSAを造ってある。淡路SAの向こうには、明石海峡大橋が見える。本州に入る前、あるいは四国に行く前に休むなら、あの風景の綺麗な淡路SAに行こうと多くの人がやって来る。この明石海峡大橋が見える場所に空間が開かれており、ガラス張りのレストランで大橋と海、対岸に見える神戸の街を眺めながら食事ができる。この風景のおかげで、沢山の人がやって来る。これは景観の良さを把握できる視点場に施設がちゃんと造られているからである。これは、日本庭園の手法としてよく知られる借景に通じる手法である。



質疑応答 (左から 藤田氏、横張氏、柴田氏)

第43回 都市緑化祭への出展協力

天高の青空の下、10月20日(日) グリーンパークで開催された都市緑化祭に事業委員会が若松支部の協力を得て「グラインドゴルフホールインワン」と銘打ったゲームを出展しました。大人から子供まで延約2500人の市民がゲームに興じました。

公園で遊ぶ面白さを満喫できたのではないかと思います。



到津の森公園 環境整備支援活動

第12回目の支援活動を2月18日(火)に行いました。市民により支えられている当公園の管理に公園等の事業者として少しでもお役に立てばと会員企業から総勢52名の皆さんが参加し、今年は北ゲート一帯の除草を行いました。理髪後のように園内はスッキリとなりました。



初めまして「〇〇」です

(市職員の横顔)

建設局公園緑地部
緑政課

大場 一樹さん

初めまして、建設局公園緑地部緑政課の大場一樹です。

生まれは北九州市八幡東区ですが、幼少の頃から遠賀町で育ちました。大學生生活は北海道で過ごし、何年経っても、冬には一面の銀世界に、興奮を抑えることが出来ませんでした。世界自然遺産登録地などの自然公園において、人の利用と自然をどのように共生させることができるのかをテーマに研究しており、北国のオフシーズン(つまり、雪のない季節)には、大学にいるより、知床や屋久島へのフィールドワークに出ている日の方が長かった気がしています。学生時代には、関係省庁やコンサルと同じ席で議論をさせていただき、計画の策定に携わっていた反動で、観光協会や現場の事業者に関心を抱き、卒業後は北海道内の温泉地でホテル業に就いて、サービス精神を身に着けるとともに、地域資源の魅力を探り、発信する方を学んでいました。

随分と遠くで畑違いなことをしていました。が、「幼いころから生活の中心地であった北九州市で働きた

い」「培った知見を活かして、私の好きな北九州市の魅力をさらに磨きたい」という思いから市役所を受験し、2016年に市の造園職として入職しました。

緑政課では、本市の緑行政の根幹となる「緑の基本計画」の改定を担当しております。この計画では、様々な観点から、今後数年先の本市における「みどり」のあり方を検討する必要があります。他、他部局との調整のみならず、市民・一般の意見も広く取り入れる必要があります。そのため、知識や経験が必要とされることは言うまでもありませんが、物事を柔軟に受け入れ、消化し、型にはめていく能力が必要とされます。業務内容は多岐にわたり、大変なことも多いですが、そのような重要な計画の改定を担当させていただけることに感謝するとともに、誇りを持って日々の業務に励んでいます。今後とも、市民の心に潤いを与えることの出来るまちづくり、そして職員を目指します。よろしくお願いたします。



僕たち 樹木医に合格しました

グッドニュース



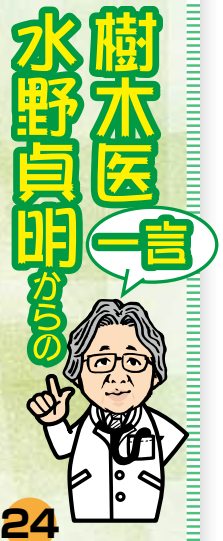
(株)西日本緑化
取締役
小松 正典

私の母も同じく樹木医で、同じ会社で頑張っております。先輩樹木医として、アドバイスをもらいながら、自分自身もさらに経験を積み、業務に励みます。地域社会に貢献できる樹木医になれるよう、積極的に様々な緑化事業に携わりたいと思います。



内山緑地建設(株)
白野江植物公園 所長
阿南 裕之

時間はかかりましたが、ようやく合格することができました。しかし、スタート地点に立てたに過ぎないので、今後は樹木医の名に恥じないよう更に精進してまいります。白野江植物公園には天然記念物の桜がありますので大切に守りたいと思います。



近接要因と究極要因

・トマトはなぜ赤いのかという質問に、多くの人はその表皮にカロチノイド化合物である赤い色素が含まれているからという解答を寄せるであろう。
・しかし、「トマトはなぜ赤いのか」という質問には、もう一つの答え方もあることを忘れてはならない。すなわち「何のために赤いのか」「赤くなる」という必然性は何か」という質問に対する答えであり、前者とはまったく異なる回答が用意されねばならない。
・例えば、「トマトが赤い」と鳥などの動物の目につきやすく、食べられる機会が多くなり、その結果種子を遠方まで、より多く、より広く散布させるのに役立つから」として「緑色からトマトが赤く変化するのには種子が完熟して、もう食べてもよいというシグナルである」という解答もあるわけである。
・トマトの例では、色素の色が近接要因であり、なぜ赤い色素を持つようになったかの説明が究極要因に相当する。究極要因についての疑問への回答は、それが提出されているレベル以下の研究からの情報では決して得ることができない。
・生物界のレベルの概念は、分子・細胞・組織・器官・個体・個体群・群衆・生態系であり、個体が集まって個体群を作り、個体群はさらに集まって群衆を構成し、生態系というまとまりを作っている。そのレベルにはそのレベル特有の属性がある。
・問題を解くためには、生物の種や集団、生物間の相互関係についての総合的、全体的な研究、すなわち生態学を中心とした個体以上のレベルの研究が必要である。また地球上で何十億年も時間によって磨かれた生物や生物システムの進化の道筋をたどることも必要となろう。

以上、三島次郎著「トマトはなぜ赤い」(生態学入門)からの引用であるが、トマトは果たしてどこで考えるのであろうか。また、その知恵はどこから来るのであろうか。
同様に、植物が動物をうまく利用する例は、ほかにも多くみられる。地球の長い進化の歴史のなかで、うまく適応できなかった種が絶滅していったのも事実である。

令和元年度 協会活動報告

令和元年

6月12日

定時総会を響灘緑地研修館で開催した。平成30年度決算及び令和元年度予算が承認された。また定款第2条の主たる事務所を北九州市に変更した。(株)九州造園の井場隆二氏が永年勤続表彰された。

(総務財政委員会)

10月20日

第43回「都市緑化祭」に若松支部の協力を得て出展した。

(事業委員会)

11月2日

恒例の「都市と自然の共生シンポジウム」に代えて、北九州国際会議場において、日本造園学会九州支部、北九州市と協働して「北九州市みどりのまちづくり推進大会」公開シンポジウムを東京大学大学院教授・横張真氏、福岡大学工学部教授・柴田久氏を講師に迎え開催した。学生・会員・行政・市民 計150名が参加した。

(総務財政委員会)

年間

2月18日

公園緑地部長など行政関係者、また北九州市議会から村上幸一議長ほかのご来賓にご臨席いただき、参加者82名で開催した。(総務財政委員会)

(総務財政委員会)

労働安全衛生法規則改正に伴う伐木作業(チェーンソー)の補講を、約120名の受講申し込みがあったため、計画した。

(技術委員会)

勉強会を開催した。3回に渡って「チェーンソー防護スボン」・「北九州市工事請負契約款の一部改正について」・「土木工事標準積算基準書の一部改定」・「農業危害の防止」・「公共工事設計労務単価」・「技術検定試験の再編」等々を話題にした。実務担当者同士で意見交換を行った。

(青年部)

広報紙「みどり北九州52号」の編集作業及び協会ホームページの更新作業を行った。

(広報委員会)

そのほか北九州市が主催する「第24回花と緑のまちづくりコンクール事業」(建設局)、「エコライフステージ2019」(環境局)へ協賛した。

令和2年

1月11日

第3回「ランドスケープ交流会in北九州」(人材確保策)を行橋高校2年生4名と1年生4名(先生1名随行)、会員企業6社の参加を得て行った。

(総務財政委員会)

1月17日

「新春みどりの集い」をステーションホテル小倉で北九州市から北橋健治市長、石川達郎



ランドスケープ交流会



定時総会



新春みどりの集い(北橋市長)



ランドスケープ交流会
(現場視察)



新春みどりの集い

緑のネットワーク



平成中村座

勝山公園大芝生広場に芝居小屋が立ち、中村勘三郎さんらによる小倉城歌舞伎公演が大入り満員で行われました。



延命寺臨海公園

響灘を望む公園の一角に北九州市初のスケートボード場が完成し、若者に人気の本格的な施設として賑わっています。

一般社団法人 北九州緑化協会 会員名簿

(令和2年4月1日現在)

支部	商号	所在地	TEL・FAX
門司	九州環境土木(株)	800-0112 門司区大字畑 46	481-3484 481-3483
	(有)西新緑地建設	800-0114 " 吉志 5-12-10	481-5467 481-5476
	(有)豊西緑地開発	801-0823 " 春日町 25-24	341-3456 342-1111
	(有)松本造園建設	801-0811 " 大字大積 666-8	341-1501 341-1502
	(株)水野文化園	800-0112 " 大字畑 46	481-4600 481-4680
	(株)門司造園	800-0101 " 大字伊川 504-9	481-2918 481-2630
	(有)門司緑地土木	800-0101 " 大字伊川 504-1	481-1897 481-1993
	(株)青葉造園	802-0023 小倉北区下富野 5-1-3	522-0234 533-7922
小倉北	(有)アートグリーン	802-0033 " 富野台 11-8	533-3735 452-1340
	朝日工産(株)	803-0853 " 高尾 1-38-5	592-4910 592-4261
	内山緑地建設(株)北九州支店	803-0841 " 清水 1-12-15	581-2741 571-5392
	(株)梅田造園土木	803-0861 " 篠崎 3-22-5	592-0516 592-0520
	岡崎建工(株)	803-0846 " 下津 5-9-22	581-4327 581-4632
	北九州東部緑地管理(株)	803-0814 " 大手町 5-23	591-1487 591-1489
	(株)九州造園	802-0026 " 大島 2-10-1	531-6121 531-6123
	(株)九州緑化産業北九州支店	803-0856 " 井天町 5-8	561-9027 561-9208
	(株)西日本緑化	803-0836 " 中井 3-3-15-107	581-4128 561-5476
	(有)緑地管理中山工房	803-0835 " 井堀 5-3-3-202	653-4152 613-0447
小倉南	青葉緑地建設(株)	802-0826 小倉南区横代南町 3-12-15	962-6175 962-6904
	(株)環境造園	800-0207 " 沼緑町 1-19-15	471-6390 472-4070
	(有)協同造園土木	800-0207 " 沼緑町 1-8-75	473-1509 473-3911
	(有)グリーンカンパニー	800-0228 " 長野 1-8-22	474-5677 474-5733
	小倉造園(株)	802-0821 " 横代北町 5-22-36	962-1136 962-1046
	(有)小倉南緑地	802-0979 " 徳力新町 1-15-23	963-0769 961-5649
	総合緑地建設(株)	803-0261 " 大字合馬 301	453-1678 453-1677
	(有)千代丸造園	800-0208 " 沼本町 2-9-22	474-5400 474-5401
	(有)林造園	803-0261 " 大字合馬 981	451-1876 451-1819
	(有)日浦緑地建設	800-0201 " 上吉田 5-18-14	473-5296 473-5256
	豊州造園建設(株)	800-0242 " 津田 5-9-24	473-6967 473-8084
	(株)みらい	800-0222 " 中曽根 3-7-32	472-5999 472-4999
	(株)守恒造園建設	802-0986 " 志井鷹羽台 4-3	962-4211 962-4272
	山本興業(有)	803-0261 " 大字合馬 234-1	451-2312 451-2312
	(株)グリーンニッポ	805-0017 八幡東区山王 3-14-28	662-3201 671-1423
東戸	菅原造園建設(株)	804-0094 戸畑区天神 2-2-21	883-1120 883-1121
	眞矢造園	804-0032 " 西大谷 1-5-7	881-0711 881-0770

支部	商号	所在地	TEL・FAX
八幡南	(有)岡野造園土木	807-0845 八幡西区永犬丸南町 2-13-38	613-3804 611-2952
	(有)河村造園	807-1153 " 岩崎 4-1-34	618-7170 618-7515
	(株)後藤緑化建設	807-1143 " 楠橋南 2-11-19	618-5384 618-6707
	(有)サン緑化	807-1114 " 吉祥寺町 7-40	618-1567 618-4684
	(有)田代造園	807-1262 " 野面 740-1	617-1792 617-4518
	東洋緑地(株)	807-0854 " 泉ヶ浦 2-22-41	883-8972 883-8855
	(株)中川碧水造園	807-1125 " 池田 2-1-3	618-0822 618-6101
	平方晴宏園	807-0075 " 下上津役 3-20-24	612-5677 612-5701
八幡北	(有)医生ヶ丘産業	807-0803 " 千代ヶ崎 3-1-6	601-8688 601-5338
	(株)折園	807-0863 " 大膳 1-14-22	601-1528 691-3063
	(株)九州緑化建設	806-0055 " 幸神 4-4-3	642-1267 641-0859
	(株)古賀造園	807-0806 " 御開 3-1-5	601-0495 601-9574
	(有)清水造園	806-0047 " 鷹の巣 2-6-30	631-0694 631-0703
	(有)千成造園土木	807-0875 " 浅川台 1-8-1	603-8050 603-8071
	大成緑地建設(株)	806-0055 " 幸神 2-5-17	641-7113 647-5177
	(有)古門造園	806-0013 " 清納 2-8-19	616-7118 616-7119
	(有)山代造園土木	807-0852 " 永犬丸西町 2-1-10	693-9718 693-9706
	(有)渡辺造園	807-0826 " 丸尾町 11-3	602-8336 602-8362
若松	遠藤土木(株)	808-0142 若松区青葉台南 2-4-14	742-0331 742-0332
	(株)オーエヌグループ	808-0121 " 大字竹並 3037	741-0648 742-0370
	岡崎造園(有)	808-0001 " 小石本村町 2-1	771-9255 771-8580
	荻迫緑化	808-0146 " 高須西 2-6-17	741-6816 741-6819
	(有)三司緑化建設	808-0106 " 片山 1-2-33	701-1565 791-7955
	(株)三宮造園土木	808-0104 " 畠田 3-4-12	701-0422 791-9223
	(有)洞北緑地建設	808-0133 " 大鳥居 14-2	741-1820 741-1848
	日本緑営(株)	808-0104 " 大字畠田 943-1	791-0440 791-0441
	(有)平和造園	808-0001 " 小石本村町 1405-2	761-2298 330-4085

賛助会員

商号	所在地	TEL・FAX
(株)成光社	803-0853 小倉北区高尾 2-5-33	561-1821 561-1820
総合園材(株)	812-0882 福岡市博多区麦野 3-18-20	092-588-9088 092-588-9220
日本乾溜工業(株)	806-0046 八幡西区森下町 27-36	631-0237 622-2357
(株)グリーンマテリアル	800-0212 小倉南区大字曾根 3958-1	967-7328 967-7329

『響灘緑地研修館』貸出のご案内

『響灘緑地研修館』は、公益目的の研修活動であれば協会員以外の方もご利用いただけます。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

所在地 北九州市若松区大字安屋 900 番地 11

電話：093-482-8018 FAX：093-482-8019

E-mail：info@kita-ryokka.or.jp



緑について気軽にご相談ください。

一般社団法人北九州緑化協会

TEL:093-482-2200 または 093-482-8018

掲示板

事務所を移転して初めての発行となる本誌「みどり北九州」は第 52 号となりました。本誌は当協会活動や北九州市の緑化事業に関する情報発信を目的としています。

また当協会ホームページでも活動内容や「みどり北九州」のバックナンバーなどもご覧になれますので、是非お気に入りに加えて下さい。

(広報委員会)

編集後記

平成から 令和へ

時代が流れ 未来が輝く
そしてその未来は 緑とともに
by H. H